

Information_3

少しずつ気候も暖かくなり犬、猫ともに予防シーズンに突入する時期です。そこで今回は猫さんのワクチンについてのお話です。



混合ワクチンの役割

- ・混合ワクチンは猫を感染症から守る母子免疫の代わりになります。
- ・母子免疫は生まれたてで感染症にかかりやすい子猫を守るため、母猫が母乳の中に含んでいる抗体のことです。この母子免疫は長くは続かず、生後60～120日頃になると消えてしまいます。ワクチンの効果を安定させるため当院では初年度2回、翌年からは年に1回のワクチン接種をおすすめしています。



混合ワクチンの注意点

ただし混合ワクチンは、ワクチンアレルギーが起こることがあります。接種回数に関係なく希に起こり、顔の腫れや激しい下痢、アナフィラキシーなどの反応が見られることがあります。ワクチン接種後に心配な症状が出た場合は先生にご相談ください。

当院でのワクチン接種のタイミング

1回目・・・生後2か月齢以降

2回目・・・1回目から4週間後

2回目接種後は1年に1回



主なワクチンの種類

猫のワクチンには、主に3種と5種があります。

種類	疾患名	症状
5種	3種 猫ウイルス性鼻気管炎	元気消失、食欲不振、突発的なくしゃみ、咳、発熱、鼻汁、流涎。結膜の腫れ、眼脂が多くなる、舌に潰瘍が形成されることもある。
	猫カリシウイルス感染症	ほぼネコウイルス性鼻気管炎と同じ。ただし流涎、眼脂の症状はなく口腔内に潰瘍が形成されることが多い。
	猫汎白血球減少症	元気消失、発熱、灰白色～血様の下痢、嘔吐、激しい脱水、急激な衰弱など。若い程重くなる傾向があり子猫は虚脱、呼吸困難、急性心不全により死亡することもある。
	猫白血病ウイルス感染症	元気消失、食欲不振、白血球数の増加、骨髄機能の障害、リンパ組織の障害など。
	クラミジア性結膜炎	段階がある。初期は片側の眼が赤みを帯び、わずかに結膜が腫れる。数日後には両眼の結膜炎へ。発生9～13日後が最も重症。2～3週間で症状は治まるが、治療の有無にかかわらず再発が少なくない。

※資料・・・インターズー

完全室内飼いの猫は3種、外出して他の猫と接触する可能性がある外飼いの猫は5種がおすすめです。

